

01 | 「平成 26 年度京都市予算編成及び今後の施政方針に対する要望書」の回答をいただきました。

昨年に提出した予算要望に対して、行政から回答をいただきました。今回の要望書は、台風18号での教訓を次に活かしていけるよう、避難所への無線LAN環境の整備や水害への避難場所検討のほか被害の大きかった梅津地域の浸水被害対応といった地域要望など防災関連に特化した内容を新規項目として盛り込んでおりました。

その他、リニア中央新幹線誘致に向けた取り組みや、保育施設の機能強化、景観条例の見直し、有害鳥獣対策の強化など、教育福祉から都市計画に至るまで行政サービスの網羅するあらゆる分野の課題に向けて74項目の政策提案を行い、うち68項目について概ね前向きなご回答をいただきました。昨年度から比べ特に前進した項目は以下の通りです。



●公債償還基金の取り崩し額の軽減●

平成25年度予算・・・9.3億円



大幅改善!

平成26年度予算・・・1.2億円

※公債償還基金

→将来、借金の返済に積み立てているお金を一般財源に使うため、将来に負担を先送りする非常にリスクのある財政措置のことをいいます。

●予防医療の拡大●

国において水痘及び成人用肺炎球菌の予防接種が平成26年度中に、予防接種法上の定期的予防接種に位置づけられる見込みです。

●空き家対策●

京都市の空き家率が14.1%を占め、今後も増加が予想される中で、空き家の活用や流通を促進などの空き家対策推進事業を実施いたします。

一方で、要望した方向性に向かうことは難しい項目もいくつかございました。各事業ごとに様々な立場の方からの声、現在に至った背景、またその他利害関係などがあるため、すぐに実現していくことが難しい項目も多くありますが、幅広くご意見を伺いながら事業ごとの“望ましいバランス”を追求していきたいと思っております。
(※要望書の詳細と回答は、京都党市会議員団ホームページに掲載しております。)

京都党市会議員団 検索



党機関紙

「京都党」第15号

トピックス	1面	… 2月定例会報告
	2面/3面	… 市会報告01「京都市会議員の定数削減69名→67名へ！結局定数は正に留まる！！」
	4面	… 「平成26年度京都市予算編成及び今後の施政方針に対する要望書」の回答をいただきました。

2月定例会報告

2月定例会は、2月14日から3月17日まで開かれました。本定例会では、市会改革推進委員会で議論を重ねており、「京都市会基本条例」が全会一致により制定、「京都市会議員の定数及び各選挙区において選挙すべき市会議員の数に関する条例」の改正案が賛成多数で可決制定されました。これにより、議員定数が69人から67人（上京区・左京区の定数が1人ずつ削減）に削減されることとなりました。この議員定数削減につきましては、2・3面に京都党の考えを掲載しております。また、議員団を代表して2月21日に中島拓哉議員（南区）と村山祥栄議員（左京区）が代表質問を行いました。各議員の質問項目については以下のとおりです。



●2月定例会 代表質問 質問項目●



●中島拓哉議員（南区）

1. 平成26年度予算案の公債償還基金の取り崩しについて
2. ごみ収集業務のあり方について
3. 京都市都市整備公社の完全民営化について



●村山祥栄議員（左京区）

1. リニア誘致に向けた具体的な取組について
2. 崇仁地区の芸大移転予定地の活用について
3. 双京構想、皇室と京都の関係について

京都市会議員の定数削減 69名→67名へ! 結局定数は正に留まる!!

2010年11月「9名の議員定数削減を求める直接請求」にご協力頂いた皆様へ

37,658名もの方にご署名頂き、議員定数9名減を求める直接請求は成立致しました。しかし、議会はこの市民の声を満場一致で否決致しました。市民の声を無視し、自らの保身を選んだ議会に対し、強い憤りを感じたことをはっきりと覚えております。そして、皆様から署名という形でお話し頂いた想いを必ず形にするという決意の中で議会活動を続けて参りました。

市会改革委員会でも議員定数が重要テーマとして位置付けられ、この3年間議論が重ねられてきました。そして、2014年2月定例会で結論として出された結果は・・・

定数 2名減

というお茶を濁すような答えでした。

満場一致で否決された前回と比べれば一歩前進であるとは言えますが、私たち市民が訴えた9名減とは程遠い答えでした。皆様にご協力頂いた直接請求が定数削減議論のきっかけとなり、2名減が進んだことに対して、改めて心より御礼申し上げます。また、これで納得した訳ではありませんので、引き続き、ありとあらゆる手段を検討しながら、議員定数削減を実現するべく取り組みを続けます。



直接請求の署名活動の様子

各会派の主張

- ・ 自民党 4名減→2名減
- ・ 共産党 削減反対
- ・ 民主党 2名減
- ・ 公明党 2名減
- ・ 京都党 9名減

市会議員の定数2名削減を受けて

【はじめに】

このたび、議員定数が2名削減されました。これは言うまでもなく約3年半前に37,658名の署名を集め、市を挙げて行われた議員定数削減の直接請求に起因しております。

当時、全国市町村や京都府は断続的に定数削減を進めるなか、京都市会だけは削減の取り組みがなく、削減すべきと京都党を中心としたメンバーが直接請求を行い、条例案を上程し、臨時議会が開かれました。結果は全会一致で否決。審議内容も削減そのものに全く理解がない有り様でした。しかし、臨時議会を境にその後の市会議員選挙では、各党定数の見直しにおいて一つの争点に掲げ、今日の市会改革委員会での議論へと発展して参りました。しかし、結果は定数を考える上での論点は様々な提案の上で議論がなされたにも関わらず、最終的には一票の格差是正しか考慮せず、民意の大きさや財政面への配慮は十分ではありません。玉虫色のお茶を濁した様な2名減で、我々の目指した9名減には遠く及ばない結果となりました。総論賛成、各論反対の極みであり、とかく残念でなりません。

【経過過程について】

これまで総論は市会改革委員会で約1年、十分議論が尽くされました。しかし各論は、2月定例議会

閉会直前になってはじめて各会派の代表者で構成する理事懇談会で議論がはじまり、定数について審議審議されたのはほんの数回というスピード決着でした。討論終了日の夕刻、突如、市会運営委員長より2名削減でいくとの報告を受けるに留まり、一方的に議論を打ち切り、強行した事はこれまで市会が謳ってきた“少数意見の尊重”とは程遠く、誠に遺憾であります。これについては共産党からも余りにも拙速、議論を尽くしたとは到底言い難いと非難の声が出ています。全く同感です。

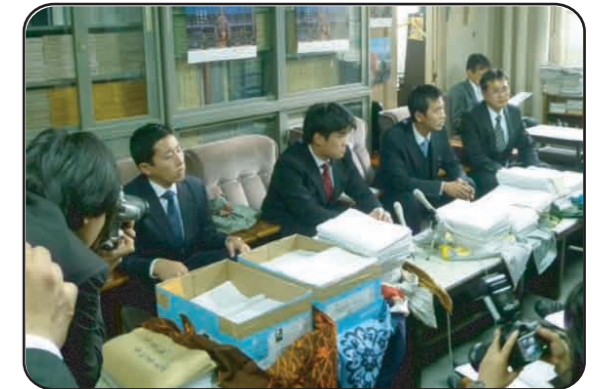
十分な審議もなく強行的に採決に持っていく運営についても、結局最後は“数の力”なのだと痛感しております。2名減については、納得する結論とは到底言えるものではありませんが、署名をしていただいた皆様の心情を思う時、同じ方向性を向いているものについては前へ進める事を優先すべきとの立場から賛成を致しました。

【各党の対応について】

より直接民主制に近づける為に議員の増員を目指す共産党、労働組合を抱え、役所・議会の縮小そのものに否定的な民主党については一定やむなしとの理解です。しかし、市会議員選挙のマニフェストでは議員の2割削減という我々よりも大幅な削減をかけた公明党が2名減から譲らなかったことは誠に遺憾であります。色々理由はあろうかと思いますが3割という大きな目標を掲げた限り、その実現に向け鋭意取り組むべきではないでしょうか。改革路線の強い自民党は4名減を掲げ、我々も妥協点を導くべく4名減に一定理解を示したにもかかわらず、ろくに審議もせぬまま、気づけば自公民で2名減というお茶を濁す数字を先導し、早々に妥決したことは残念でなりません。

【今後について】

2名減が実現したことは、直接請求の成果であることは揺るぎのない事実ですが、より9名減に近づけなかったのは、我々京都党が責を負うべきところであり、無力さを痛感すると共に署名活動に携わっていただいた方々を思うと無念でなりません。現在京都党は、交渉会派になるのに議員数が不足しており、交渉権そのものがない現状にあります。改めて、議員数を増やし民意の反映をしっかりと出来るよう、決意を新たにすると共に、“議員自ら身を削り、改革の先鞭をつける”ための定数削減についてはあきらめず鋭意取り組んで参ります。



署名提出の記者会見の様子

政治家自ら身を削り、行革を進めるべし 市会議員の定数削減！結局定数は正に留まる

議員定数
-2名

続きは **WEB** で!! [京都党市会議員団 検索](#)

京都党は市民主導の政治を目指し、2010年8月に結党いたしました。そして同年10月から市民主導の政治の第一弾として9名の議員定数削減を求める直接請求を実施しました。市内各地の皆様にご賛同頂き、33704人の署名を当時の市議会に提出いたしました。しかし、当時の議会には我々は議席を持たず、自民、民主、公明、共産の4会派だけで構成されており、この市民の声を満場一致で否決いたしました。そのため、行財政改革の旗振り役である議員自らが、まずは身を切る姿勢を示すべきであると翌年4月の市会議員選挙においても声を大にして議員定数削減を訴えて参りました。具体的な定数についての議論が本格的に活発化したのは討論終了間際であり、あまりにも議論がつかされたとは言えない状態のまま結論を出すに至りました。拙速かつ強行的な議会運営であったと感じざるを得ません。そのため、われわれ京都党市会議員団は9名の定数削減を訴え、市民の皆様と共に署名活動を推進した立場として、今回の2議席の削減だけでは到底納得をすることができません。今後ともわれわれ京都党は直接請求にご署名頂いた33704人の皆様とともに、ありとあらゆる手段を検討しながら、さらなる議員定数削減を訴え続けて参ります。

(2014年3月17日・議員定数条例討論より抜粋)

TOPICS 崇仁改良住宅の契約議案、唯一反対!
「同和行政は終わった」としながら、今でも崇仁地区では同和対策事業として取り組んできた改良住宅が建設され続けている。京都党は「脱・同和行政」を掲げ、唯一反対をした。

地域政党 京都党 2月市会報告
京都市会議員団

2014年3月25日 京都市中京区上本町前488 京都市役所内

京都新聞 朝刊(平成26年3月25日)に広告を掲載いたしました。